

5室と11室の軸

ラオ先生は『占星術、運命、時輪』の中で、5室と11室の軸を富を表わすヨーガとして取り上げています。確かに11室は非常に高いステータスを表わすハウスであり、このハウスで惑星が強い場合、飛び抜けた桁違いの富をもたらします。というのは11室は飛びぬけて高い地位を表わし、社会的名声、地位を与えるハウスであることから類推できます。それが富に働く場合も、飛びぬけて高い富をあらわします。5室 11室の軸に惑星が在住すると、5室にも11室にもアスペクトして、非常に密度の濃い、ダナヨーガを形成します。これが2室とか9室とか他のハウスでは対向が8室や3室になるため、このようにはなりません。5 - 11室の軸にダナヨーガを形成すると、資本家とか投資家になりやすく、才能を使って事業を起こし、あるいは事業に投資して、富を為すのではないかと考えられます。

上述したような項目を見ていくことによって、チャートの持ち主がどの程度の収入を得られる人であるかを調べる事が出来ます。

ピリーグラハムの場合、木星と火星の相互アスペクトで、1 - 2、1 - 9のダナヨーガ、火星と月の接合で、2 - 5、5 - 9のダナヨーガ、月と火星のコンジャンクト、アルタハウスへの惑星在住（3つ以上の在住で惑星集中であるが、木星は自室にアスペクトを返しており、10室が強調されているため、惑星集中と同じぐらいの強さがあると思われる）など、ダナヨーガや富を表わす条件がいくつか見られます。然し、彼の場合、ダナヨーガは4 - 10室の軸で形成されているため、社会的地位の確立や大舞台での活躍、昇進の副産物として得られるのであって、富そのものが目的となるような配置ではなく、あくまでも仕事（10室）やアシュラム（4室）が彼の目的で富はその過程で自然についてくるという解釈になります。